

## 令和7年度（永谷高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

## ○ 課題・目標別実施結果

| 課 題                           | 目 標  | 実施結果と目標の達成状況   |
|-------------------------------|--|--|
| 法令順守意識の向上                     | 公務員としての自覚を新たにし、公務外非行の防止及び職員行動指針の周知・徹底を図る。    | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 所属職員を対象にした不祥事防止研修会を実施した。</li> <li>○ 各グループ・教科・学年等の打ち合わせを通して意識の向上を図った。</li> <li>○ 日常的な声掛けや情報共有を通して、組織全体として規範意識の向上が図られ、達成された。</li> </ul>   |
| 職場のハラスメント（パワハラ、セクハラ、マタハラ等）の防止 | 優越的な関係を背景に業務上の範囲を超えたハラスメント行為の徹底防止に努める。       | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 所属職員を対象にしたハラスメントに係る人権研修会を実施した。</li> <li>○ 各グループ・教科・学年等の打ち合わせを通して意識の向上を図った。</li> <li>○ SNS等の適切な利用についても周知徹底し、職員間の意識向上と相談体制の充実により、事故は発生せず達成された。</li> </ul>   |
| 児童・生徒に対するわいせつ・セクハラ行為の防止       | 人権意識を高め、わいせつ・セクハラ行為の徹底防止に努める。                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 啓発資料等を活用した不祥事防止研修会を実施し、人権意識の醸成を図った。</li> <li>○ 日常的に機を捉えて生徒指導は複数で、若しくは他職員の目の届く場所で行うことを再確認した。</li> <li>○ 職員一人ひとりが、常に高い倫理感を持ち、不祥事（わいせつ事案等）防止を徹底した。</li> <li>○ 日常的なコミュニケーションの活性化と情報共有による同僚性の醸成が組織的な支援体制の強化につながり、概ね達成された。</li> </ul>   |
| 体罰、不適切な指導の防止                  | 生徒の人権擁護を最大目的とし、これに基づいてすべての教育活動を実施し体罰ゼロを堅持する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の人権相談窓口をより充実させ、指導に対する疑問や不安を迅速に発見し対処するよう努めた。</li> <li>○ 生徒情報交換会やケース会議を充実させ、支援すべき生徒に適切できめ細かな指導を実施した。</li> <li>○ 教科準備室等の目隠しになるものを撤廃し、密室状態を排除した。また、日常的に機を捉えて生徒指導は複数で、もしくは他職員の目の届く場所で行うことを再確認した。</li> <li>○ 啓発資料等を活用した不祥事防止研修会を実施した。</li> <li>○ 総括教諭や管理職を中心に、相談・支援体制の充実を図り、職員が課題を抱え込まない環境づくりを推進し、概ね達成された。</li> </ul> |
| 成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る事故防止   | 学期末学年末の成績処理、調査書等の発行のミス在未然に防止する。              | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 不祥事防止研修会においてマニュアル等を確認し、手順に則った処理を徹底した。</li> <li>○ 意識向上が図られ、重大事故は発生せず概ね達成された。</li> </ul>  |
| 個人情報等の管理、情報セキュリティ対策           | 個人情報保護についての意識と技術を高め、個人情報流出を未然に防止する。          | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報管理に関する不祥事防止研修会を実施した。</li> <li>○ 情報の収集から返却・廃棄までの管理体制を厳格にし、確実に処理されるよう細心の注意を払い、良好に管理された。</li> </ul>  |
| 交通事故防止、酒酔い・酒気帯び運転防止、交通法規の遵守   | 交通事故、酒酔い、酒気帯び運転発生を未然に防止する。                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 過去の事例等を提示し、事故を自分のこととして捉える不祥事防止研修会を実施した。</li> <li>○ 交通規則の遵守について日常的に機を捉えて呼びかけ、酒酔い運転等撲滅への啓発を進め、事故は発生せず達成された。</li> </ul>  |

|                                 |  |  |
|---------------------------------|--|--|
| 業務執行体制の確保（情報共有、相互チェック体制、業務協力体制） | 情報を共有し、相互にチェックする体制を整え、協力して業務を執行し、ミスを防ぐ体制を確立する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各グループ業務の点検を実施し、より効率的な業務執行体制を概ね確立できた。</li> <li>○ 文書を廃棄する際には必ず1枚ずつ確認することを励行し、必要に応じシュレッダー等の使用を規制した。</li> <li>○ 安定した業務執行体制の整備が図られ、概ね達成された。</li> </ul>         |
| 財務事務等の適正執行                      | 私費等の会計事務の執行を適正に行い、事故の発生を防止する。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 所属職員を対象とした私費会計執行手順についての研修会を実施した。</li> <li>○ 定期的に出納簿をチェックするように体制を整え、ミスの早期発見、改善を図った。</li> <li>○ 一部に改善を要する点があり、継続的な確認体制の強化と意識向上を図る必要があるが、概ね達成された。</li> </ul> |

○ 令和7年度における不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と今後の課題（学校長意見）

令和7年度は事故・不祥事防止研修会を中心に取組を継続した結果、不祥事ゼロプログラム全体の達成状況はおおむね良好であった。そのような中で、私費会計の研修会については、会計担当者だけでなく全員の意識を高め、事故防止に努めた結果、一定の成果を上げたものの、一部に改善を要する点があり、引き続き改善に向けた取組を進めていく。

来年度は本校と横浜桜陽の再編統合による新校への準備を具体的に実施していくことを進める中、学校にある「物品・財務」の整理が大変大きな業務となる。廃棄や執行などにおいて、事故の無いように十分に未然防止の徹底に努め、全職員の「物品と財務」に関する意識を高めていくことを今後も重要な課題と捉え、とくに業務執行体制の強化に取り組む。

今後も不祥事防止・早期発見・再発防止に向けた取組を継続し、信頼される学校づくりに努めていく。